

出会いを自分の力に

今年の4月、星野富弘さんという方が亡くなりました。

私の人生において様々な出会いがありましたが、この星野富弘さんが書いた本の存在を教えてくださいました方への感謝は、今もなお、続いています。

私が星野富弘さんの本と出会ったのは今から30年くらい前。

親愛を込めて富弘さんと呼ばせていただきますが、彼の本は、私の人生に大きな影響を与えました。

富弘さんの本には、中学生向けにも「愛、深き淵より」があります。今朝、皆さんにも紹介しようと思い、図書室を探してみたのですが、残念ながら見当たりませんでした。図書担当の先生に聞いたところ、「頼んでおきます」という言葉をいただきましたので、よかったら読んでみてください。ただ、今の生活に絶望や不安、どうしようもない苦しみがないと、心に響かないかもしれません。

彼は花の絵を描き、その絵に詩を添えて作品を発表していました。彼が書いた詩の中に、こういう作品があります。

「(「すいせん」の詩を紹介しました。著作権法に触れる恐れがあるため、記載しません)」

今日、彼の筆跡を真似て、その詩を書いてきましたので見てくだ

さい。

もちろん、これは君たちに見えるように大きく書いたので、実際のサイズではありません。彼が書いたサイズは、君たちがいつも書く文字の大きさと同じくらいです。味のある字ですね。

実は、彼はこの詩を、口にくわえた筆で書いたのです。

彼は事故で、首から下がまったく動かなくなっていました。

苦しみと絶望の中にあつた彼は、長い長い時間、何年もの辛い思いを経て、この詩を作り出すに至った。その過程を想像したとき、私は「自分も頑張れるはずだ」という勇気をもらうことができたのです。

人生は出会いの連続です。その出会いは、思いがけず自分にエネルギーを与えてくれるときがあります。

昨日の夜、教務の先生から賞状を書いてほしいと頼まれました。

昼間、精魂込めて仕事をし、先生方もほとんどいなくなり、さあ自分も帰れるぞ、と荷物をまとめた時間でした。

いやあ、愕然としました。開いた口が塞がらないとはまさに昨日の私の姿です。

そうして、たくさんの賞状を目の前にして途方に暮れ、心が折れそうになったとき、君たちの姿が頭に浮かんだのです。自分一人なら投げ出したはずです。しかし、君たちの大会での頑張りを思い描

き、どんな気持ちで賞状を受け取ってきたかを想像した私は、君たちから勇気をもらうことができたのです。

そうして、限界だったはずの自分の中に、もう一踏ん張りの活力が湧き上がり、無事に賞状を書き終えることができました。

頑張ることができたのは、君たちのお陰です。本当にありがとう。

思えば、私たちは自分1人の人生しか生きられないけれども、私がこうして君たちや富弘さんの人生から勇気をもらったように、誰かを知り、その苦しみや喜び、生き甲斐や絶望、どんな気持ちだったかを想像することによって、自分の人生に生かすことができる。

実は、君たちの人生にもあふれている。

友達が誰かに優しくして、その相手がうれしそうにしている様子を見て、自分も誰かに喜んでほしいと真似してみる。また、誰かが失敗をして辛い気持ちになってしまった姿を見て、自分も気をつけようと心がけられるようになる。そうして私たちは、自分以外の人から、経験とエネルギーを分けてもらって生きている。

私の人生も、君たちに負けないくらい豊かであるを知っているけれども、どうしても君たちを見ていて、うらやましいと感ずることがある。それは、君たちが先生方から愛されていること。唐桑中学校での学びを通して、働いている方々と触れ合う機会がものすごく

多いということ。唐桑という故郷に誇りを持てる機会がものすごく豊かにあるということ。

なにせ、私が仕事を見ることができた、仕事の話を知ることができた大人の存在は、農業をしている親と、学校の先生くらいしかいなかったのです。だからどうしても、「もし私が、君たちと同じような中学校生活を送ったのなら、どんな人生を歩んだことだろう」と想像してしまいます。少なくとも、当時の私よりも夢を描ける機会が、自分の可能性を信じる機会が多かったはずです。

今日で1学期が終わります。人間は、過去は変えられないけれども、未来を変えることができる。その変えられない過去、変えられないからこそ、過去は宝物であふれている。

その「宝物」とは、人と人との出会い。その出会いを未来に生かすこと。その出会いを勇気に変えること。

中学校では、本当に勉強がたいへんです。小学校のときとは比べものにならないほど覚えなければならないことがたくさんある。でも、小学校のときのエネルギーは、自分の中に湧いてくる量だけだったはず。中学校になって、大人になってきた君たちは、くじけそうになったとき、あと一踏ん張りしなければならないとき、私のように、誰かを想像することができる。その人のために頑張ることができる。

それは、仕事がつたいへんで疲れ切っているはずなのに夜ご飯を作

ってくれる家族だったり、一緒に励まし合って、支え合っている友達だったり、私にとっての富弘さんのような存在でも良い。人と人との出会いを自分の力に変えていく。過去を未来につなげていく。それが人生の宝物です。

君たちのこれからの姿に、これまでに出会った人々を自分の力に変えていく学校生活、そして、家庭での頑張りに期待しています。

1学期は本当にお疲れさまでした。

以上で式辞といたします。